

『豊かで活力ある安全安心な川路』の実現！ 2021年（令和3年）6月23日

皆さんは「はんぎれ」というものをご存知ですか？たらいの大きい物ですが、川路の農家には昔は当たり前にあった道具だそうです。川路の農家は副業として和紙の生産に力を入れており、その和紙を生産する工程で洗浄用の容器として使われていたそうです。川路で生産された和紙は、濡れない様に嚴重に梱包され、時又港より天竜川を下り、遠州沖から遠く江戸まで運ばれたそうです。昭和36年の水害の際、3区の長谷部厚子さんは、2階まで浸水した自宅から脱出するために、長男をお茶箱に入れて送り出し、ご自分と次男はこの「はんぎれ」に乗り、ご主人とご主人の弟さんが泳いで引っ張りながら避難されたそうです。その時の「はんぎれ」は近くの広田屋さんの物。川路まちづくり委員会会長の今村正太さんのご実家で、今村会長は当時小学校5年生でしたが、その「はんぎれ」を引っ張ったことを、鮮明に記憶されているそうです。

あの忌まわしい36災害より60年の月日がたち、6月27日式典が行われますが、この36災の記憶が風化して、防災がおろそかにならない様に、まちづくり委員会と水害予防組合が協力して、しっかりと準備を進めております。特に36災を経験されていない若い皆さんに、川路の先人の苦勞を知って頂き、防災の意識を高めて頂きたいと願っております。その一環として、前日の6月26日に川路の水害に対する闘いの歴史を知る天竜川周辺ウォーキングを計画しております。川路の水害復興の歴史、洪水対策として爆破された音瀬岩や姑射橋下の鷹待岩等歩きながら要所要所で古老とお呼びするにはお若い地域の先輩の皆さんから説明を伺います。又翌日は「構成吟」というスライドを背景に詩吟、書道、踊りを組み合わせたイベントを行います。前述の長谷部厚子さんに避難された時の苦勞話を朗読して頂きます。又川路消防分団長、日赤奉仕団分団長に参加頂き、川路の防災に対する取り組みに関してパネルディスカッションをして頂きます。消防団員の皆様、日赤奉仕団の皆様、分団長を陰で支援して頂く様に是非応援に駆け付けて下さい。お待ちしております。

「貝暮ヶ淵」って何の事？

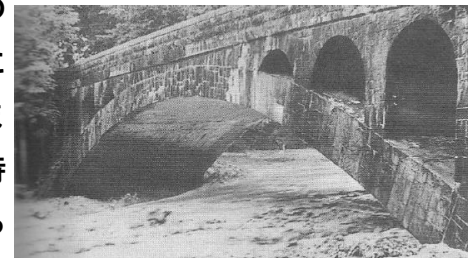
昔川路の一区と呼ばれた、現竜丘嶋地区に大きな沼があったことをご存知ですか？関ヶ原の戦い後17年の1617年、伊予の国大須から飯田藩五万五千石の領主となった脇坂安元侯は、正保2年（1645年）川路1区に「大堰」と呼ばれた堤防を構築し、その結果生じたのが、「貝暮ヶ淵」だそうです。この「大堰」が出来るとまでは、天竜川は開善寺近くまで蛇行して流れていたそうです。「大堰」建設により「貝暮ヶ淵」が誕生して50年後の1694年、脇坂氏は播州龍野に国替えとなり、代わって領主となったのが、美濃高須藩松平摂津の守。無用の「貝暮ヶ淵」を埋め立て、新田を開発しようと計画。現「五反田」家の先祖である庄屋の文太夫に連絡。文太夫及び里人は感激するも「淵の主」の祟りを恐れ、当時はやっていた「人柱」の代わりに、文太夫の墓地石塔及び村内の民家の墓石数基に経文を貼り、「貝暮ヶ淵」に投げ、無事普請を完了。墓石を投じた後の、代わりのささやかな小墓石が今も五反田家の墓に並び遺されているそうです。又、沼の主と恐れられた大蛇は、綺麗な娘に姿を変えて、大下条にある「深見の池」に移って行ったと川路の昔話として伝承されているそうです。天竜川ウォーキングではもう少し詳しく説明をお聞きします。是非ご参加下さい。



最近の死人岩



爆破された姑射橋下の鷹待岩



36災の濁流に揺れる姑射橋写真



江戸時代初期の天竜川川筋

教育育成委員会主催「ほたる観察会」

皆さんは「ほたる」を食べたらおいしいと思いますか？ほたるなんて食べたことがない！という子供の回答に始まった蛍の勉強会。講師は5区の四方さん。飯田市美術博物館の学芸員で、お話がとってもお上手な方です。四方さんは蛙が大好きで、小さなお子さんから「蛙のお話して！」とおねだりがかかるほどです。保育園の子供さんから70代の年配の方まで大勢の方が参加してくれました。「ほたるはゴキブリの仲間ですか？そうだと思う人手を上げて！」「残念でした。ほたるはカブトムシの仲間です。」そんな楽しいお話の後、実際に現地で観察会。今回は雨の為、七区の相生公園近くの大畑沢で観察しましたが、1～2匹見られたただけでした。教育育成委員長の小木曾みどりさん達は事前に確認してくれまして、10匹以上いたとのお話でしたが、やはり雨の中ではほたるもお休みでした。しかし貴重なほたるを四方さんが捕まえて下さり、子供たちに見せてくれました。においをかいでるお子さんも。翌日は天気も良く、夜8時ころ行ってみると、いました、いました。20匹以上があちらこちらで恋のシグナル。川路には他に4区、2区等あちこちでほたるが見られるようになったとの事です。昔の様に蛍が乱舞する川路が近いかも？ちなみに冒頭のほたるの味ですが、とてもまずいそうです。赤と黒の色の生物は、たいがい毒を持っており、「俺を食べると毒があるぞ！」と脅かしているのだそうです。

「菜の花の種」を皆さんで採りました

今年の菜の花の出来は今一でしたが、来年こそ素晴らしい菜の花畑を作ろうと、6月12日川路菜の花愛護会を中心に天龍峡アヴニール倶楽部の皆さんの協力も得て、菜の花の種取りを行いました。橋本國雄さんのシニア大学の友人の方3人もお手伝いに来てくれました。遠く根羽村から来られた方もおられました。ご協力ありがとうございました。お陰様で目標50kg以上確保することができました。秋は種蒔きです。是非ご協力お願い致します。

土砂災害避難訓練が行われました

皆さんは、大雨の時どこに避難するか決めておられますか？警戒レベルが「4」に達し、避難指示が出された場合、まずは親戚、知人、次にホテル旅館等が候補です。行政指定の避難場所に行く場合、マスク、消毒液、体温計、スリッパ等を携行して下さい。レッドゾーンの方、高齢のお一人暮らしの方には各区から案内が有りますが、一般の方はご自分で情報を入手し、避難する様に心がけて下さい。去る6月6日全国統一の防災訓練が行われ、川路でもレッドゾーンの皆様を中心に訓練を実施しました。防災無線が入りにくい箇所がある等の課題も見つかり、今後改善して参ります。



四方先生から蛍のお話を聴く受講生の皆さん



あいにくの雨の中蛍を見る参加者の皆さん



蛍を捕まえて皆さんに見せてくれる四方先生



「菜の花の種」採取に駆け付けてくれた皆さん



川路公民館に設置された防災訓練本部